****

**4月2日 最初の日曜日**

新人社会人の皆さん。

長い長い学生生活を終えて、晴れて自由な社会人となられました。

おめでとうございます。

今日と言う、社会人初日曜日は、どうお過ごしでしょう。

社会人は、責任もありますが、自己責任において自由です。

親からの仕送りやお小遣いではなく、自分で働いた稼ぎを自由に使えます。

初任給をもらったら、何に使いますか。旅行ですか、貯金ですか。

でも、私の時代は、初任給を母親に差し上げました。

母は、半分受け取って、半分は私に返してくれたと思います。

母は、そのお金で、親戚に下着を買ってプレゼントしたのではなかったかと思います。

正確な記憶ではないので、間違いかもしれませんが。

当時でも、もう、そのような事をする習慣は少なかったと思います。

私は、昔から、妙に義理や礼儀や作法にこだわるところがありました。

今の私だったら、初任給で、親を、映画か食事に誘うでしょう。

さて、今日は、最初の日曜日です。皆さんの今日の予定は如何ですか。

引越しの整理でしょうか。友達と会うのでしょうか。疲れて、寝て曜日でしょうか。

私は、この1ヶ月は疲れ果てて、一日テレビを観ながら、寝ているつもりです。

私が小学生の頃は、父も、病院から、毎日深夜遅くに帰ってくる生活で、

日曜日は、昼まで、寝ていました。

高校になる頃には、ゴルフを始め、休日は、夫婦で自家用車を運転してゴルフに、

欠かさずに行っていました。

終日、病院のコンクリートの建物に閉じ込められた生活から、

空と緑の空間に逃げたかったのだと、思います。

学生の時分と違って、これからは、日曜日、休日が貴重に思えるようになります。

医療福祉の仕事は、24時間365日勤務です。

休日に、体も心もしっかり休める事が大事です。

でも、ゆっくり本を読める時間でもあります。

私は、この半年、本を読むより、ネットで検索する時間が増えました。

でも、そろそろ、紙の上の世界に戻りたいと感じています。

皆さんは如何でしょうか。桜もまだ、見頃でしょうか。

代表　湖山 泰成

**4月17日 農福連携**

この言葉も、政策提言の中で、時々聞く。

これも、行政、政治、マスコミ、学者、評論家からで、実際の障害者や、

農業事業者から聞いた事は、無い。

これも、社会から見た理想論なのではないか。

私は、個人的には、大賛成で、高齢者の病院・施設、保育園の周辺で農業をすべきだと、

幾度か、施設スタッフと論議したのだが、残念ならが具体的にはならなかった。

銀座ミツバチのメンバーとして、銀座の屋上で、養蜂や、芋焼酎造りに励む。

鳥取のメロンを全国の母子施設や保育園に配る。福島のお米を首都圏で購入し、食する。

現在は、首都圏の工事中の保育園で、屋上に苺園を設置する予定である。

保育園の母子と職員が、苺を育て、自ら採取する場面を想定している。

農家が、後期高齢者になっても、介護サービスを使わず、毎日、畑に繰り出す。

毎朝、キノコ採取に山に登る。若い時からの作業は、相当の年まで、自ら行える。

認知症の症状も、あまり発症しない。

でも、その歳まで、一切経験の無い障害者が、農業をするのは、相当に困難だ。

多数のサポート、ボランティアが必要となる。

そこで、実現、継続は、困難になってしまうのだ。

農福連携は、元気な農業者が、施設サービスを望まない場合にのみ、

現実継続ができると思う。

それ以外は、多大な税金、補助金、ボランティアの投入が必要になると思う。

私自身が、農福連携を夢見る都会者だから、その気持ちは良くわかるのだ。

中山間地、農家の生涯生きる道として、安易に介護施設を利用しない。

障害者でも、子どもの時から、自然、農業に馴染んで育つ。そういう、社会環境が望ましい。

私ですら、歳をとって、生活のリズムや、行動範囲が変わるのは、相当に厳しい。

音楽も、スポーツも、囲碁将棋も、読書も、若い時からの習慣としておかないと、

歳をとってからの手習いは難しい。昨日、誕生日なので、いくつかの花束を頂いた。

その手入れだけでも、自分一人では戸惑ってしまう。

20の頃、表千家に通った事はあった。きちんと習っておけばよかった。

若い時から、ガーデニングの趣味を持っておけば良かったと、後悔した。

日曜日のテレビの、ガーデニング番組は好きで良く観ていたのだが。

自らの手作業で、実体験としておかなければ、何も身につかない。

今週は、母子施設の家族と、イチゴ狩りに行く。私の農業体験は、これくらいだ。

それでも、楽しみでワクワクしている。子ども達もそうあって欲しいと、願っている。

代表　湖山 泰成

**4月23日　苺狩り**

年一回だが、毎年、川崎の苺農園に、苺狩りに出かける。

昨日は、母子の親子だけでなく、保育園のスタッフも参加した。

どんな果物でも、もぎたてで食べるのは、美味しい。

何と言っても、みずみずしい。

参加者の最年少は、2歳になりたてくらいの子だと思う。

大きな、真っ赤な苺を、まるまる一個、口に咥えていた。

喉に詰まる事はないだろうと思ったが、嬉しそうに食べていた。

苺はこうやって、なっているのだよ。

もぎたてを、齧って食べると、本当にみずみずしくて、甘くて美味しいのだよ。

その事を、お母さんとの春の思い出にしてほしい。

その事を、私も一緒に経験できて、楽しめるのは、人生の喜びだ。

湖山の職員とは、長い人生の経営運営の苦労を共にしてきた。

そして、湖山の理念を体現して来た。

艱難辛苦を共にするとは、良く言ったものだ。

でも、たまには、共に美味しいものを共有する事も大事だ。

喜びも、楽しみも人生で共有していきたい。

老いて行く事を自覚する年代になると、若い人、家族との人生の思い出が、どんにに大事か判ってくる。

若い時は、何時も、人生前のめりで、過去を懐かしむような、そんな余裕はなかった。

今ならわかる。

子供の時の、親との旅行や食事の思い出は、将来の記憶、財産となる。

老いて、気持ちの寂しさを支えるのは、子供の時の幸せな体験の記憶だ。

昨日の1日の思い出づくりも、未来への介護となる。

今年最後の苺になるかもしれないが、一年分は、十分味わったと思う。

もう、来年は、誰を連れて来ようかと考えている。

代表　湖山泰成